

会 議 録

- 1 会議の名称 令和8年度第2回川根本町総合計画審議会
- 2 会議日時 令和8年7月9日（木） 午後3時00分 から
午後4時45分 まで
- 3 開催場所 川根本町役場本庁舎 3階会議室
- 4 出席した者の氏名
 - （1）委 員 小泉祐一郎会長、山田貴之委員、佐々木直也委員、大村敏秋委員、
松下陽子委員、豊島宏委員、和田智保委員、鈴木麗委員、山田典秀委員、
下嶋恵委員、藤中康彦委員

オブザーバー 静岡県中部地域局長 鈴木正人
 - （2）執行機関 （事務局）経営戦略課
課長 高橋寛明、まちづくり推進室 室長 櫻井久美
主幹 林 三貴
 - （3）傍 聴 人 3人
- 5 内容
 - （1）第2次川根本町総合計画の達成状況の報告について
 - （2）川根本町地方創生総合戦略の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計（案）
について
 - （3）総合計画策定スケジュール（案）について
- 6 会議資料の名称
 - （1）第2回川根本町総合計画審議会次第
 - （2）川根本町総合計画審議会委員名簿
 - （3）第2次川根本町総合計画の達成状況について
 - （4）川根本町地方創生総合戦略の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計（案）
 - （5）第3次川根本町総合計画策定スケジュール（案）

7 発言の内容

	(1. 開会) (2. 会長あいさつ) 小泉祐一郎会長 (3. 内容) (1) 第2次川根本町総合計画の達成状況の報告について 事務局説明
会長	説明について、意見・質問はあるか。
委員	町民満足度と行政評価の「乖離」を分析する手法は、課題が浮き彫りになり非常に分かりやすい。 計画のチェックをしっかりと行い、町民が何を求めているのかを深く掘り下げるべき。
委員	全体として「現役世代」が関わる分野の満足度が低いのが気になる。 単に他と比較して悪いのか、本質的に不満があるのか、背景を考える必要がある。
	(2) 川根本町地方創生総合戦略の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計(案)について 事務局説明
会長	人口減少は全国的な動向。説明内容について質問、意見があればお願いしたい。
委員	生産年齢人口1人が何人の高齢者を支えるかという「シミュレーション」が重要。特に働き手や子育て世代の転出超過を考慮した施策の重点化が必要。 そのようなシミュレーションは実施したか。
事務局	そのシミュレーションは実施していないので、参考とさせていただく。
委員	人口減少の「スピード(加速度)」がどう変化しているかの情報が欲しい。施策の効果で減少が鈍化しているのかどうか分かれば、施策が当たっているかどうかの判断基準になる。
会長	他にいかがか。

委員	高齢者が多い現状において、「元気でピンピンしている（健康寿命）」実態が重要。高齢者が自立した生活を送っていれば、町はまだ維持できると思う。高齢者が健康でいられるための政策、生きがいを持って過ごせるための仕組みづくりに重点を置いていただきたい。 子どもについても、今いる子どもたちを全力で大切にし、彼らに地域の産業や観光、そして素晴らしい自然をしっかりと伝えていく。地域への理解を深めてもらうことが、未来に繋がっていくのだと思う。
会長	人口推計以外のことでもいいので順番に発言をお願いします。
委員	町民が、自分の生活に直結していると納得できるバランスの良い施策を期待する。
委員	茶工場の閉鎖が相次いでおり不安。農業を支える年齢層の偏りが深刻。観光の満足度が低い理由を詳しく知りたい。 移住には「仕事」が不可欠であり、外部企業が投資したくなるような施策を盛り込んでほしい。
委員	幼児教育の満足度が低いという結果を真摯に受け止めたいが、具体的な課題を知りたい。 子どもを中心に据え、この町の魅力を体験できる教育を継続し、将来戻ってきたいと思える環境を作りたい。
委員	行政評価が高いのは、KPI（目標指標）の設定がずれているからではないか。例えば幼児教育なら「待機児童ゼロだから100点」といった形式的な評価が、実態とズレている。 アンケートについては、年少人口、生産年齢人口、高齢者の3区分で分析すると実態に合った結果が出てくる。 お茶の付加価値向上や、交流・関係人口による「外貨獲得」で若者の負担を減らす戦略が必要。
委員	教育環境は素晴らしいが、高校進学時の「交通の便」が最大の課題。始発バスが5時台で、家山駅で50分待つ必要がある、送迎に長時間かかるなどの負担が町外流出の大きな要因。 交通インフラさえ充実すれば、この町に住み続けながら多様な教育を受ける選択肢が広がる。
委員	資料の「潜在的な人材の活用」という項目が気になった。シニア層は「潜在的」というより、すでに現場を支える「顕在的」な戦力になっており、「もっと頑張れ」という戦略には違和感がある。

委員	計画に「ワクワク感」や「楽しさ」が足りない。 若者が組織の中で自己効力感を持たず、「つまらない」と感じてしまう現状を打破するアプローチが欲しい。 一次産業の衰退が予想以上に厳しい。これまでの農業施策が町に合致していたか検証が必要。 財源は限られている。あれもこれもではなく、町民の幸福度に直結する分野へ集中投資すべき。
オブザーバー	静岡県では、全県的な方針として「幸福度日本一の静岡県」の実現を目指している。人口減少への適応（インフラの維持等）と、地場産業（茶・観光）の振興の両立が鍵と考えている。 町への愛着度が約90%と非常に高いことは素晴らしい強み。これを計画に活かしてほしい。
会長	北海道等他県に比べれば、川根本町は立地に恵まれている。それゆえ危機感が中途半端になりやすい。他県では、生き残りをかけた凄まじい「ダウンサイジング」が行われていることを知る必要がある。 公共政策の評価について、町民の「満足度」と、行政側の「評価指標」は、次元が異なるという前提でギャップを分析することが重要。 これからは「量」で測る時代ではない。ダウンサイジングを受け入れ、いかに「質」で幸福度を維持するかにシフトすべき。 総合計画というのは施策の「メニュー」や「方向性」を示すものなので、抽象的になりがち。複数の施策をどう組み合わせて実行するかという「作戦」が、これからの町づくりには不可欠。 （３）総合計画策定スケジュール（案）について 事務局説明 以上をもって、議事は終了とする。 （４．閉会）

上記に相違ないことを確認する。

委員長 小泉 祐一郎